



東亞書院藏



直茂公御教訓
古老物語

全



直茂様所教訓條覺書



一 佛神も只信心おこるまゝお祈り外別しる事
なり 作事

一 年々有し早き志い主人の氣入る事 作事

一 万般あり物集りし能くお祈りなり 作事

一 法事へし信を頼みしに國家長久を祈り 作事

一 由緒し時先きて後より家中に所送云々 作事

一 時高き事なり人々を潔く家をあらはし之を祈り 作事

一 治世し先きし信はぬ仕指しし斗世なる事 作事

一 小寺なり大事を仕ぬ先きし信はぬ事 作事

一 一存し分ふる時眼を垂きはれと日常様の
何となく抱ひて観念する 一 寺に依り別分し
なり 作事 勝茂云

一 能くお祈りかけ内儀し 一 熱のたひを祈り心
棄てぬし次申す別 一 家を頼り 作事

一 不以頼みし信を入不仕ぬお祈りなり 作事

一 小身ぬ者信を忘る事なり 一 小身ぬ時
子く申すを忘る事なり 一 作事

一 内いし 一 祈りなり 一 家に入りし人限批判 作事

一 志きこころいふ程の妨に成るに作事

一 いりこころ人にとんある我れ人にくる指存

一 有らぬいふるをよりよく家を名に作事

一 種くそ能ふ業法を志し人成ましく

一 志浮忍むるを志し作事

一 教あしむに教あて不音但教あし後得を指

可仕と作事

一 下の心を能量り上よりて授きくつてさうく

一 更

一 一輩の同い助くすけ金い中一輩一分明

一 人より一生いあきに極る一法し人むさうぬれ

一 煙非を礼者人得おちる

一 大るの品果いおろくを

一 法事人より先おはる

一 法事法思し更

一 義より志しるより十に七思

一 武備に思ふくふ所あるを

一 上下より志し一度身命を不捨志し不恥

一 利殺しを別地花咲美をさる類多

一 法飛を獨進しつゝ不加分別時身の難や

一 憲法に中身の批事な煙外に煙を

一 子孫の行儀は先祖の象と

一 芝^シ根^ネの^ノ名^ナ無^ムい^イ子^コ孫^ソの^ノ情^{セイ}五^ゴ次^ジ才^{サイ}

信心の掃除人の心と不破の如く花離

一 才上の座いのり橋上板山

一 舟中失道を以て本

一
電占、運中付部、
定用之、
運中、

一軍、欲力棄而不入、極之怪也。——透房と云ふは、
時、勝利必定

一、卜程胃折更始

一 横座の地い実るよりそよりそより作の更

一 武具に於ては金印を以て行ふ處て行ふ之業

書
公
得
之
名
作
筆

武篇の情、先お為くの武具を油断不致、
徳傍

菜食くも心能妻合親子兄弟の心成下目

然の時共に終に一身もろもろ持ちて居る者なり

かゝる合の心
25
作事

一 武士 毎朝 久く 参り 子 亦 参る 趣 爲る 所 持

天作

武乃亦作通る。二つの目もあひねる。是れ

武王の功を以て作

人を知るは情に依りて人を知るは情に依りて

といふ事
 其の
 意
 思
 なる
 人
 の
 集
 る
 方
 の
 通
 じ

集りたる人二種ある千名（さ）る作事――

一 何よりある時を後（さ）る作事――

一 人の石の所持（し）る作事――

一 人の事（こと）を（さ）る作事――

一 人の事（こと）を（さ）る作事――

一 各（ひとり）等（ひと）を（さ）る作事――

一 各（ひとり）等（ひと）を（さ）る作事――

一 歌（うた）と（さ）る作事――

一 歌（うた）と（さ）る作事――

一 少（すく）人の何（なん）方（ほう）（さ）る作事――

一 我（われ）前（まへ）ある（さ）る作事――

一 信（しん）味（み）くとも苦（くる）み（さ）る作事――

一 人の所持（し）る作事――

一 人の所持（し）る作事――

一 商（しやう）好（こう）の（さ）る作事――

一 商（しやう）好（こう）の（さ）る作事――

一 奉（ほう）出（しゅつ）の（さ）る作事――

一 奉（ほう）出（しゅつ）の（さ）る作事――

一 人（ひと）事（こと）成（なり）お（さ）る作事――

一 物（もの）毎（まい）我（われ）お（さ）る作事――

一 隆（りゆう）信（しん）様（さま）の（さ）る作事――

一 隆（りゆう）信（しん）様（さま）の（さ）る作事――

一 徳人あ心するを好む事あ合ふる人こそあ合て
んよ必恵まふ——まふとやうとやうなふてい
身い為さふは——作事

一 公儀勤指時——ありとらと結ん実ふ時——不肖指、
兼而清是情徳人ふ適時下——見限——さうふ
ふて是所——方お伺さうくおぬ氣を付ね
晴ありの家——見候——ちり——時——なりとわぬ中
そ必家風とた失ふもの中——信——

一 一旦けりや——にや——さういふ——公見さうさうおぬ
我公のするとも志実——さういふ——人——つぬぬ
——作事——

一 後——多時——出はさう荒——さうおぬ怒とふさ時
——お事——するとも志実——さういふ——人——つぬぬ
——作事——

老士物語にケル書

刀を袖にさして付立事

喧嘩はおも切伏て後あゝとて一人お腰を

て後と切——子細あふいとて一人家へ溜り中

やとて敗子細と云ふ——さたてて切後へ切合は

時早く夢もかけいふ人の成る——目心もけ分像

一定切死を初事——切跡——るる志述とる者

何け比無るるを切とけとて追ふるる者

馬場火屋守歌合

名さくふと付いさく人へ向ひて情を記す云々

とて——我も負おふ程なくいふ者お返供——

一 絶歌にぬひ——れ合初るる時大雷氣を發

大音揚く無口——そととて云々——大野田道賢

懐随を懐き

何て云ふぬり口上おひ——何る程の一言と

とて子なるおとけとて吹くは情を石砂二の

後とて云々——切腹集中にあつては云々

一 人として鞘を柄と突けしを突傾け人の合

牛馬の通り合竹本持也おあるお子振ひる件

衣類の肉をよぶ——切付、時に袖を答て

頭の上おもふ懐て分へは方のけ——時を免

るをよ建ふおとる席ド——とて上とて

福なりとて^ふき^を尚^はは^をけ^て付^果是^は怪^を侍^り
大馬^をそ^を実^をと^る人^の事^は

夜中^に一^つの^人が^飛お^ち給^失う^大音^揚く^吸を^け
そ^を過^して^人が^あり^て歸^る事^は

我^等は^矢と^て感^有人^も知^りて^答と^て即^ちの^上に^あり^て
を^快と^する^事に^あり^て是^は矢^に時^に早^速を^侍
其^節即^ちを^りて^その^事に^あり^て果^然是^は怪^を侍^り
是^は在^るぬ^矢先^に計^りる^事に^あり^て

大馬^人を^及時^に下^に而^接接^すて^一列^定ま^る
即^ち一^つの^人が^上に^あり^て視^をと^りけ^り上^にあ^り
ふ^りふ^り

馬^形船^既廣^く者^音飛^は也^時に^水國^中也^候
そ^のも^の家^人の^口あ^りて^人の^心に^あり^て連^連也^一に^も利^にあ^りて^候
そ^のも^のが^中に^あり^て中^にあ^りて^馬形^船也^候

内^程人^の係^りに^あり^て結^して^一に^あり^て命^をと^る
之^後不^仕る^事に^あり^て内^程人^の係^りに^あり^て命^をと^る
有^るぬ^相は^有る^事に^あり^て中^にあ^りて^一に^あり^て命^をと^る
一^つの^人が^あり^て中^にあ^りて^一に^あり^て命^をと^る
有^るに^あり^て中^にあ^りて^一に^あり^て命^をと^る
有^るに^あり^て中^にあ^りて^一に^あり^て命^をと^る

殺^害人^の係^りに^あり^て命^をと^る
と^りて^一に^あり^て命^をと^る

後見す一一々たつておきぬ一持ていひてさせ
 後拍子と字沖う始終に極事後世に為殺害
 隣端屋敷より喧嘩を起し何となく具を打
 お合立向うと山子細く存存いふた右殿より
 先拍子とてさういひてさういふ謂ふは保保とて
 一たつていふを和人とてさういふ
 借し者不安に伐殺しお多し向ひ自害とて
 一いひて若切をうてお持上一
 組を官喧嘩供時に付く切替う自害とて
 一拍子次第より仕事院で後にも付答
 ころる切負た右るふとていふは保保とて

一殿中その刀束拔きおき時に礼心酒狂を殺害
 一とて河をかけおきぬとて一陽をささぐ
 持上り付く一上殿中一伐りて付付
 一とて水のむ一切とて一終ておき切替の中
 一とて及細細とて一陽をささぐ
 一殿中一とて他なる刀失く殿中一付付他なる亭
 一とておき一とて人おきとておきおきとて
 一とて人おき代り力ありいふとて味とておき
 一とて清合とておきおきとておき
 一とておきおきとておきとておき
 一とておきおきとておきとておき
 一とておきおきとておきとておき

を付あり車 水野監物及子爵初代北條と云々なり川上并に
中野政馬野田と云々なり
妻と云々なり

喧嘩し修治の月近付なり早事院を多し口組持し
細女番持し内入ふ戸高云々なり石運大進
中付も不道殊念ふ事不及之此以并大共
此分し何れ我も此世をわたりし事なり
此分し後日一人口を自之て番
くおもしろ切死ゆより外を海原
に持てふ事番人におもしろい事なり
弓を引たり急多ふ及之此は事なり

二門口組の上を悪口は人とし時我も少き
るも存しなりなりなりなりなりなりなり
吃を答ふなりなりなりなりなりなりなり

江戸上方を傍家元他方人々喧嘩し時
近付なり果てし他方人々傍家元身寄
同前なり 此處は治世の時なり
中野政馬野田と云々なり
難い色仕留し時云々なり
し事なり 此處は治世の時なり
中野政馬野田と云々なり

云々なり 此處は治世の時なり
中野政馬野田と云々なり
一三九 此處は治世の時なり
中野政馬野田と云々なり
一上を恨むなり 此處は治世の時なり
中野政馬野田と云々なり
一後悔なり 此處は治世の時なり
中野政馬野田と云々なり
一廿と云々なり 此處は治世の時なり
中野政馬野田と云々なり

一武備し出とゆすくろすい事おそく同
我後居るおそく申家い徳をいさるる

一徳の弱ひ

一徳のぬけん

一疑の弱

一疑の

一ちそ徳一の類

一徳病

一ちそき

一すくもき

一か

一け

一か

一まけ

一きんるひと

一身の色之

一たす

一きくの類

一たけこの類

一森林平信徳なり

一むけ
金居のきき
大徳をいさる

一先よりれ使す

右類戯
おもひ

一古老徳く徳ふく不取

一武者初と受く平生し初と味

武芸云
多徳人

一曲者いさきさきさき死に遠き

一武道小室て法度と不用事

一武乃小徳ふ時死ふ極る

一誤りきり時いさく即上しきゆふ時一徳仕

一とて果る

一勇なるの形初一言の場とみと女徳と

一むく
義経云のひのひと志きやあまのおどかち

一物とよりし切く奥徳とあきさのるの止徳と

一遠遠く眼あきるるも勇なるのすりき

うぐいし——と我々慶いぬとふ人
一 紀きお二ふの時ふと——後て移る料理
物と氣と身と信おとて今秋とふと

一 酒中とて益し初一言もあふと去るを
るふとて心は事清く人外とて人外とて眼と眼と
合ふとてとてとては回復を尋ねるふと味とはある

一 飲食と新とて事清く笑とておととてとて

一 不意とて事出来とて人合とて居る人合
——又も目とてとて人合とて刀とて心とて
——手解とて片時も居る人と離る人

一 云々用は——とて以後とて居る人合
一 物とてとてとてとてとてとてとてとて
けとてとてとてとてとてとてとてとて

一 居る人合とてとてとてとてとてとてとて
一 床とてとてとてとてとてとてとてとて

一 押さ押さ字とてとてとてとてとてとてとて
一 物とてとてとてとてとてとてとてとて
目とてとてとてとてとてとてとてとて

一 物とてとてとてとてとてとてとてとて
一 此外とてとてとてとてとてとてとてとて
一 物とてとてとてとてとてとてとてとて

実く形付成田舎を多う之竹袴おもと
へふに柄の上へ扇座より多う下流捨る
すきさる目心の座より昔もたて侍る

一 虎座おと林あい合おし時難替し時お毎功をぬ
り難く出多欲し時り候へりもる外味を
無事なり一為作口柄出難候多時とはた
実なりとん中とのへ後、美又男氣の二より
うし事

一 出るとけも虎中より外へと座し合ぬ事を候
る多想くそ人ふあふおとぬく不云切之てな
く一出るとふおぬ余りな云く美人し心わすけ

一 若き時様おそし多お心候し候挨拶を候
物を回しけい進り時えり言ふす中ふけり多
おし外おし果してかてえ延川ある昔候追
てしとひて能く答へてうし事

一 相成様様お次し召えく在事

一 ぬしやねあやう礼お相ふてまうしけ時ふ
かけん中おえ

一 人し氣をけいふに見者ある人只我も
と能くうし候定しおぬあてり

一 人お記きりもまうし名いふ実をりお
うし事

一 入りたる見苦き世に曲天にありあり
城を指し入るる公界そくし館にありあり
手をとるる

一 懐中道具の事

守

一 八の片狼小縄

信

一 一の粉

粒明柿

一 子母

香

一 矢立

一 是非の味と一 人若くは老若と相入るる
武士の曲志一種を説く女能すを引く心なり
智と徳と能とを指し入るの曲志大なるあり

一 定限し難き時し難き歯歯の事

一 主君し難き時し難き事
人情なりし難き事
と存しし難き事

一 一役し難き時し難き先を後し難き事

一 是の事

一 人の難き時し難き事
一 人の難き時し難き事
一 人の難き時し難き事

一 人の難き時し難き事

一 人の難き時し難き事

一人一言を欲せし味方と欲せし敵を合
わたりきくと礼を交わらずに心をけし
むせ中らるる事

殿中へ召喚せしとて召し出せば直に切
り通し一ひりあはれりとの別を紙
なるものなり

一 用おとさるる者には官を授けし金限借
りしものありし故に独り武備ありし
一 版にけしきせし官に事あるものなり
一 事云人内大の外は外虎の皮とぬきし
る揚ねる事なり

一 上下より人看しめし天下の家と礼人と
換さし所とせしものなり名もの欲ふ
一 欲はるるの義理をたしめ義理なきもの
一 親と貴ひなりとせし忠臣なり子のつ
れおとさるるものなり
一 親なりし事子ひりしおとさるる事なり
一 人との限りしものなりけしきありし
我々の非を願はば人より憎むるなりと云
しものなり

一 換せし徳せしと云ふ事いふく換の字
片身へ心成るもの
仕と物一切をいふに云わし塵土の政しくなる
もの

一 人の用おきて思ふことすまひ云わぬ有りけ
るもの一入用おきて金き事

一 七思ふ事

一 言わねる事

一 士に程のつくぬこと

一 用おきて二念をいふ

一 道のおもひと云ふ事

一 多くぬる事
外ありき事

一 士に忠と存とをいふ

一 病にありける事

一 二つおきておきて

一 力とも入る事

一 力とも入る事

一 力とも入る事

一 力とも入る事

一 力とも入る事

一 力とも入る事

之故人の信誼をわづらふ

一 惺非いふ和より起る和順すまに理也勿謂

一 理と此の和より起る和順すまに理也勿謂

法に極る事

一 事と云ふは金貨の如きことと云ふは地盤

と云ふは校業と云ふは和を事と云ふは

一 上下より我の和の上の名無と云ふは

和人の和を和と云ふは和と云ふは

和と云ふは和と云ふは和と云ふは

云々事と云ふは和と云ふは和と云ふは

一 二と云ふは和の用と云ふは和と云ふは

法に及ぶ一と云ふは和と云ふは和と云ふは

和と云ふは和と云ふは和と云ふは

様と云ふは

一 法に及ぶ一と云ふは和と云ふは和と云ふは

和と云ふは和と云ふは和と云ふは

一 和と云ふは和と云ふは和と云ふは

和と云ふは和と云ふは和と云ふは

和と云ふは和と云ふは和と云ふは

和と云ふは和と云ふは和と云ふは

一 事

一 我持流の風を作り替へ和といふ和といふ言

とひ能事を盡して我相ある人おぼくは
とくふよとの事いひて之を以て令るあり

一 孝人の禁酒いへば徳あり家ねん
是は物中にもある一ふに業外にあらね
お酒は戸上りといふ用字は徳事を言ふに
後し者物ふの交礼なりと物に返れり
人の徳めねするは是をぬかひかき悪口口

一 物とは保する事いふ方し之を徳といふ
てはたす事いひ稀なり
一 國其子と心を仰先祖様方し心入徳あり

一 武勇のふい家し室之科ありとも
ふい初定なるいふ家前あり
やまら及なり

一 恩も受ける人いふ生をいふは徳あり
ねむる云いふ命を惜むも
有馬及家来山田是なり

一 何事と存するも骨髄に徹し血と涙と流
しつゝいふ徳はなり

一 匠之類も理と見付る事いふに
我心より白きる理と見付る事
我心より白きる理と見付る事

一 初為人云云、子立也表裏厚薄を述ぶる事
 一 兵者の道^通は、遠くも振返ると、名とて揚と
 する事、款い子孫万孫も、この我を人として歩
 る人又けり、人てあるけり、心をば、兵
 の方ひ智やも力やも、心とて、心とて剛なり
 一 徳と一強ある事
 一 常にお見え書物事
 一 玉茂様所望書
 一 石家絶縁し書
 一 松永守書
 一 松林夜話
 一 茂宅の書、義理と云
 一 柴田守書
 一 岩瀬夜話別集
 一 古老物語集

一 武者相伝抄
 一 要隘集
 一 佐然抄
 一 四書小學
 一 傳心法要
 一 軍旅本記
 一 切者書
 一 武林二徳集
 一 小條立代記
 一 夜是化
 一 野鞍橋
 一 大成経
 一 侯勢守及尾越書
 一 侍用集

一 家道訓
 一 武勇と天下の取、日本一の大将の名、武勇の
 一 子と才一の忠義、石河内國家を治る人、武勇と
 一 事、主人の陳言、名をふり、事、内閣

立人といはるる是根お我身心より
主君の非をいひしるに悔ぬけぬる
しる合ぬるものと云ふに不忠不義
勅定なる徳徳といふ考の徳徳と考る者徳
けく徳と悔ふもの生に徳死に徳之曲を徳
と悔ふもの

神佛とて及て信の感通するものと云ふ
毎朝所先祖様殿様にもお次お我先祖母
と云ふもの
人い先誓願とおこす一仙神誓願とおこす
誓願と目ある一修りすといふもの

何れ書もあつて云い誓願のりき
人といふ
も云ふのあつて凡神口上り次之に徳
子云ふに徳と云ふ徳と云ふ徳と云ふ
礼と云ふ徳と云ふ徳と云ふ徳と云ふ
書中におき名に云ふ人若くは徳
書礼のあつて人におき名に云ふ人若くは徳
徳と云ふ徳と云ふ徳と云ふ徳と云ふ

自然の心へけり知る事途中にこれなり
席を回らる外おておてあはれ人あて
味あは事

身あかりする事いふより志進して居る
心あかりする事いふより志進して居る
心あかりする事いふより志進して居る

智恵といふは候する事人お託誠する事
急場いふは四指言新小町あて極む
武士道 忠 孝 人の為
侯合といふ我の極する事人の人立増する
事いふは後しめ成るも増する事

け防方といふは我のけはる賢智と
自慢といふは大功も業あはれ上害事なり
身心といふは一切を君わたりて私と
も云といふは一切を君のわたりて
私と

忠孝といふは事の基我の心の名無事なり
何よりとも我の心いふは事なり及事と
併發する事いふは事なりあはれ
一言いふは候する事
武術といふは方なりあはれは事なり

52-3238



